

科目番号		52024	分類	実践助産学	履修者	高度実践助産コース			学年	
科目名	助産実践力開発実習 (Practicum for Development of midwifery Skills)								1	
									配当セスター	
									後期	
担当者	○渡邊 香 他5名			区分	助産師免許取得プログラム	必修	単位	4	時間数	180
授業の概要および目標							学位授与の方針との関連			
【概 要】 生理的な経過をたどる妊産褥婦・新生児への助産ケアについて科学的根拠に基づいて考え、実践できる能力を養う。母子とその家族を継続的・総合的に理解し、個別性を踏まえた助産ケアを実践する能力を養う。健康の保持増進のための健康教育および育児支援の重要性を理解する。これらの実践を通して、助産師の責任と役割を理解する。 【目 標】 1. 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性をアセスメントし、妊娠、分娩、産褥、新生児の各期の助産診断ができる。 2. 妊娠、分娩、産褥、新生児の各期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案、実施、評価できる。 3. 対象の個別性や優先順位を考慮して助産ケアの実践ができる。 4. 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期における母子の健康からの逸脱、異常兆候を予知・予測し、その対応を考え、実践することができる。 5. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の継続したケアを通して、母子および家族への個別的なケアや保健指導を実践することができる。 6. 自分の行った助産過程を振り返り、自己の課題を明確にし、実践につなげることができる。 7. 周産期に必要な保健医療チームとの連携、助産師の責任と役割について説明することができる。							○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力		
							○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力		
							○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力		
							○	4.周産期の救急時に対応できる能力		
							○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力		
								6.研究・開発能力		
							○	7.倫理的意思決定能力		
【内 容】 1. 実習時期 2027年1月～2月 2. 実習場所 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 国立病院機構 東京医療センター 国立病院機構 埼玉病院 国立病院機構 相模原病院 3. 実習内容 ・妊婦健康診査 ・分娩介助 ・間接介助 ・産褥期・新生児期の助産ケア ・産褥期の保健指導 (詳細は実習要項参照)										
事前・事後学習		事前学習：前期に開講された授業内容を復習しておくこと。 事後学習：自己課題を明確にし、復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み合わせること。								
評価の方法		実習目標の達成度による評価を行う (実習記録 30%と実習状況 70%)。								
参考図書・資料等		助産学科目で用いた参考図書を適宜用いる。								
備 考		オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 履修要件：助産学基礎実習の単位修得 フィードバックは適宜行う。								